

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和5年度3月号

○ 概要

(1) 令和5年度3月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,368億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲0.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,563円（伸び率+0.3%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,971億円（伸び率▲1.3%）、薬剤料が5,383億円（伸び率▲0.7%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,063億円（伸び率▲5.6%）であった。（→P.4,5）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,364円（伸び率+0.9%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.74種類（伸び率+1.3%）、27.6日（伸び率▲1.7%）、71円（伸び率+1.4%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料4,133億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲9億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の769億円（伸び幅+18億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+109億円（総額270億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,133 億円 (▲9 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(769 億円)	21 循環器官用薬 (585 億円)	11 中枢神経系用薬 (561 億円)
0歳以上 5歳未満	20.9 億円 (▲2.6 億円)	44 アレルギー用薬 (7.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.4 億円)	61 抗生物質製剤 (2.8 億円)
5歳以上 15歳未満	123.4 億円 (+6.7 億円)	44 アレルギー用薬 (46.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (28.9 億円)	62 化学療法剤 (12.3 億円)
15歳以上 65歳未満	1,600 億円 (+24 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(298 億円)	11 中枢神経系用薬 (290 億円)	21 循環器官用薬 (180 億円)
65歳以上 75歳未満	848 億円 (▲59 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(191 億円)	42 腫瘍用薬 (147 億円)	21 循環器官用薬 (139 億円)
75歳以上	1,540 億円 (+21 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(271 億円)	21 循環器官用薬 (263 億円)	42 腫瘍用薬 (205 億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,563円（伸び率+0.3%）で、最も高かったのは高知県（11,381円（伸び率+0.9%））、最も低かったのは佐賀県（8,118円（伸び率+0.8%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは大分県（伸び率+3.2%）、最も低かったのは北海道（伸び率▲2.1%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	85.3 %	+1.5 %
薬剤料ベース	19.7 %	▲1.0 %
後発品調剤率	81.3 %	+1.0 %
（参考）数量ベース（旧指標）	60.2 %	+0.3 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲5.6 %	▲0.2 % (100歳以上)	▲14.5 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	28.1 % (100歳以上)	13.6 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	85.3 %	89.3 % (100歳以上)	80.9 % (5歳以上 10歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	888 億円 (▲56 億円)	21 循環器官用薬 (262 億円)	11 中枢神経系用薬 (148 億円)	44 アレルギー用薬 (103 億円)
0歳以上 5歳未満	7.9 億円 (▲1.6 億円)	44 アレルギー用薬 (4.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)	62 化学療法剤 (0.5 億円)
5歳以上 15歳未満	25.9 億円 (▲2.4 億円)	44 アレルギー用薬 (16.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.0 億円)
15歳以上 65歳未満	332 億円 (▲15 億円)	21 循環器官用薬 (75 億円)	11 中枢神経系用薬 (70 億円)	44 アレルギー用薬 (58 億円)
65歳以上 75歳未満	178 億円 (▲20 億円)	21 循環器官用薬 (67 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	23 消化器官用薬 (21 億円)
75歳以上	344 億円 (▲17 億円)	21 循環器官用薬 (119 億円)	11 中枢神経系用薬 (54 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,380 円	1,740 円(北海道)	1,164 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.5%	▲2.5 % (徳島県)	▲6.7 % (福井県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	85.3 %	91.2 % (沖縄県)	81.9 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	22.5 % (鹿児島県)	17.3 % (京都府)
後発医薬品調剤率	81.3 %	86.1 % (沖縄県)	77.4 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	60.2 %	67.2 % (沖縄県)	56.6 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和5年度3月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。